

テーマ 「4技能の総合に基づくコミュニケーション能力の育成 ～ ICTとAuthentic Materialの活用を通して～」

I はじめに

本校では今年度より「言語活動の充実と道德教育の推進 ～新学習指導要領の実践に向けて～」という研究主題のもと、各教科で研究を進めている。そこで英語科における言語活動とは何か、そしてその充実のために何が必要なのかを考え、明らかにしていきたい。

1. 英語科における言語活動とは

私たち人間は日常的に言語を用いる。なぜなら人間とは個では存在できない生き物であり、「理性」をもって「集団」としての社会生活を確立していくために、言語による「伝達」（コミュニケーション）という活動が必要不可欠だからである。言語は知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤であり、「知」・「徳」の両面に大きく関わるものである。この言語を用いた活動を充実することは、子どもたちに基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をバランスよく育てるために大切なことでもある。また、思いを伝え合ったり、心を通わせあったりする場合の表現方法の一つとしても重要な活動であることは言うまでもない。つまり言語を用いずして意思疎通することはできないのである。言い換えるなら言語は人間を育み、育まれた人間が豊かな社会を築くということになるのか。

では、英語科における言語活動とは何かという点にかえてみると、そもそも英語はそれ自体が言語であり、その活動とは英語を用いてコミュニケーションすることである。コミュニケーションは「人と人との相互理解を深めること」のために必要であり、さらに英語は様々な国の人々との相互理解を深めるために必要な手段と言える。どんな言語であれ、外国語を学ぶということはその国の文化を学ぶことにもつながり、その国への理解と憧憬が自然と湧いてくるものである。中でも英語は多くの人に用いられる言語であり、国際社会で活躍するこれからの日本人にとって、お互いの理解を深めるためには英語を用いて自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちや考えを聞いたりして、相手を知ることが必要なのである。自分の考えや気持ちを伝え、相手の気持ちや考えを聞く。そしてさらにそれに対して意見を述べたり、思いを表現したりすること、つまりは「自己表現」、これこそ英語科における言語活動なのだと言える。

2. 言語活動の充実のために ～研究主題設定の理由～

平成10年に告示された学習指導要領では外国語の目標として「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」ことを掲げ、書くことや読むことよりも、習ってすぐに聞いたり、話したりできるようになるような力を身につける必要性を説いた。しかし、私たち日本人のように、日常的に英語が使われる環境にない中で聞いたり話したりできるようになるためにはそれ相応の語彙や文法等の知識が必要である。聞く練習、話す練習をすればコミュニケーション能力が養われるということはおおよそ不可能である。そういった問題の解決に向け、新学習指導要領ではその目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」と掲げている。要は聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのバランスなのである。聞いたり読んだりして理解できるための語彙や文法、書いたり話したりできるようになるための語彙や文法によって、コミュニケーションする力が支えられていることを改めて説いているのである。そこで本校英語科では言語活動、つまり自己表現の充実のために、どのような指導方法や内容、工夫が必要なのかという視点を次のように捉えることとした。

①コミュニケーション能力の基礎を養うための指導方法及び内容の工夫と開発

○4領域の各指導事項を踏まえた自己表現活動の指導

- ・語彙や文法の定着を図るための言語活動とその語彙や文法を実際に運用するための言語活動とのバランスを考えた指導
- ・既習の学習内容を繰り返して指導し、定着を図る（習得）ことから、さらに学習の深まりを目指す（活用）指導の工夫
- ・小学校外国語活動で育まれたコミュニケーション能力の素地についての理解とその素地に基づいた発展的な指導

②4技能を総合的に育成する指導の工夫

○「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識や情報などを、自らの体験や考えなどと結びつけて「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう4技能を総合的に育成する指導の充実

- ・学ぶ楽しさ、できたという達成感を味わえる場の設定

これら2点の視点を実践するため、本校英語科では研究主題を「4技能の総合に基づくコミュニケーション能力の育成」とし、4技能のバランスを考えた指導方法や内容の研究・開発に取り組むこととした。

II 今年度の取り組み ～これまでの成果と課題から～

本校英語科では過去3年間「英語科における豊かな学びの創造 ～CALLとAuthentic Materialの活用～」という研究主題のもと、コミュニケーション能力の育成に取り組んできた。この過去3年間の研究の成果と課題を踏まえ、本校英語科が捉えた言語活動を充実させるための指導の視点について具体的に述べたい。

1. CALL教室におけるCALLシステムの活用

CALL教室でコンピュータを用いて学習を行うことは、語彙や文法等の基礎的な知識や技能を身につけさせるために大きな効果が期待できることが確認された。Quia.webやHot Potatoes等のウェブやソフトウェアを活用することにより、生徒達の英語学習に対する興味・関心を喚起し、より効果的な自主学习を可能にしてくれることに、疑いの余地はない。普通教室とは違い、一人に一台コンピュータがある環境で、生徒たちは自分のペースで語彙や文法の習得学習に楽しみながら取り組んでいる。

ただ、英語学習にとって極めて重要なコミュニケーションの練習には不向きであるということが明らかになった。ヘッドセットやマイクロフォンを使った会話練習は一見効果的に見えるが、相手の顔を見ないで行うコミュニケーションはやはり本物とはほど遠く、生徒達の興味を持続させることは難しい。教室が広すぎ、他の生徒の声が聞こえにくいことも大きな障害となった。やはりコミュニケーションの練習は、互いの声が聞こえる広さの教室で、対面で行うことが基本であることを再認識した。

そこで今年度はCALLシステムの活用を語彙や文法の習得学習において重点的に扱い、退屈になりがちな習得学習を楽しみ、飽きさせないような教材の開発に取り組んでいる。特に、新学習指導要領の実施に向け、語彙数では900語から1200語の履修が必須となる中、本校では増えた300語の補充学習にsmart.fmを利用している。

2. 普通教室における簡易CALL装置の活用

昨年度までの研究では、普通教室において簡易CALL装置を用いることの効果が極めて大きいことが確認された。具体的には以下の6点が挙げられる。

- ・生徒に背を向けず、生徒の顔を見ながら授業を進めることができる

- ・板書の時間を省くことができる
- ・間違い箇所をすばやく修正でき、次の授業にその間違いを持ち越さないで済む
- ・一度教材を作成すれば、少しの修正で繰り返し長く使用することができる
- ・動画や写真等を用いることで、状況や内容を予測させ、理解をより容易にすることができる
- ・大量の情報を短時間で与えることができる

これらの6つの利点はCALL教室でも同じことが挙げられる。しかし、前述の通りCALL教室はコミュニケーション活動に不向きである。その点、普通教室では生徒がお互いの顔を見てコミュニケーションすることができ、お互いの声も聞き取りやすい丁度よい広さである。ただ、普通教室では一人に一台、コンピュータがあるという環境ではないため、飽きさせない習得学習を行わせる教材や工夫が必要である。CALL教室におけるCALLシステム、普通教室における簡易CALL装置、どちらも一長一短がある。そしてどちらにも共通して挙げられる課題は、画面が一つしかないので与えられた情報がずっとそこに残っていないという点である。それでもやはり、これらICT機器の活用は大きなメリットがあり、実際に目にされた他校の先生方からは「実際に利用してみて、授業に大きな変化を与えることができた。」「子どもたちが興味を持って取り組むようになった。」という声が聞かれる。そこで今年度は黒板とチョークをうまく併用しながら、長く残しておくべき情報をどう保存していくのかを工夫しながら、4技能を総合的に扱うためのさらに効果的なICT機器の活用法を模索していく必要がある。

3. Authentic Materialの活用

日本における英語学習は、第2言語としてではなく、外国語として取り組まれる。しかしながら、この明らかな事実が実際にはなおざりにされていることが多い。もし日本国内で日常生活において英語が実際に使用される場面があるなら、語彙や文法はさほど重要ではなく、英語学習の基本は英語を使って会話の練習を行うことに重点が置かれるべきであろうが、現実には我が国においては、日常生活において英語を用いる機会などほとんどない。このことは次の2つのことを意味している。一つは、意識的に子どもたちの英語学習に対する興味・関心を高めることが必要不可欠なこと。そしてもう一つは、意識的に系統的な語彙や文法等の学習を行っていくことが重要であるということである。

英語学習に対する興味・関心を高め、持続させていくための最も大事かつ効果的な方法は、英語が実際にコミュニケーションにおいて使われ、役に立つのだということを身をもって体験させること以外にはない。そのためには、できるだけ多くの機会をとらえて、本物のコミュニケーション場面を英語学習に取り入れていくことが重要であることが確認された。和歌山大学の留学生との交流、外国人観光客との交流、電子メールによる外国の子どもたちとの交流、普通郵便による有名人へのファンレター等を通じて、子どもたちの英語学習に対する意欲・関心が大いに高まったことを確信している。そこで今年度は「教科の日」を利用してAuthentic Materialを扱う機会を増やし、体験を通して生徒たちの英語学習に対する意欲をさらに高めたい。習ってきたことが使えたという達成感を味わうことこそ、学習意欲の高まりにつながるのである。生徒たちが達成感を味わうために、場の設定と4技能をバランスよく身につけさせる指導の工夫について研究を深めたい。

4. 協同学習的手法の導入

フィンランドでは4人組のグループ学習を基本とした協同学習を取り入れ、考える力を育てており、その結果、学力世界一に就いた。昨今は多くの教育関係者が世界各国からフィンランドを訪れ、その教育に学ぼうと協同学習の研究に取り組んでいる。今や協同学習は世界の教育の大きな潮流となりつつあるのである。

英語科では、この協同学習の手法を授業に取り入れることにより、授業がかなり活性化したことを感じている。今まででも、もちろんペアやグループによる学習には取り組んではきていたが、それは理論に支えられたものではなかった。そこで昨年度は「①ペアやグループの中の一人のメンバーの学習が、他のメンバーにとっても利益となっているか。②ペアやグループで学習することに必然性があるか。」と

いう「互恵的な関係の成立」の視点を加えることにより、学習効果をより高めることが可能になりつつある。昨年度の研究協議会では大学の先生から「卓越性」についてご指摘いただいたが、それを踏まえ、今年度の課題は、協同学習を導入することによる「卓越性」をいかに実現していくかということに設定したい。「卓越性」とは、一人ではできないものをグループの力で達成すること、グループだからこそ課題解決することができた、ということである。現在のグループ編成も様々な学力レベルの生徒を混合して編成しているが、集団の力で、学習の苦手な生徒を救い、また力のある生徒の理解をさらに深めることを目標に、活動方法や与える課題の内容等について開発と工夫を重ねていきたいと思う。

以上に述べた通り、これまでの研究で明らかになったICT機器とAuthentic Materialの活用を通して得た成果を最大限に活かしつつ、4技能をバランスよく身につけさせ、その総合に基づいてコミュニケーション能力の基礎を養うために新たな教材と指導方法の開発・工夫が必要であることはもはや言うまでもない。コンピュータは多くの情報を生徒に与えることができるという利点についてさらに研究を深め、ICTとAuthentic Materialの活用を通して昨年度までの課題を克服していきたいと考える。

Ⅲ 成果と課題

今年度の研究では昨年度からの課題において、研究をより深めることができた。検証された内容を以下にまとめる。

1. CALL教室でのCALLシステムの活用について

今年度はこれまでのQuia.webやHot Potatoes等のウェブやソフトウェアに加え、smart.fmを利用した語彙の補充学習に取り組んできている。その利点は次の5点であることが検証された。

- ①生徒が各自自分のペースで自主的に学習に取り組める。
- ②サーバーが学習進度や到達度を自動的に記録し、その学習者にもっとも適した学習方法を計画してくれる。
- ③音声や画像が充実している、ゲーム感覚で取り組めるツールが付属している等、学習者に飽きさせない工夫がなされている。
- ④無償で取り組める。
- ⑤自宅でもネットに接続されたパソコンがあれば自主的に取り組むことができる。

このように、本サイトは大変便利な学習ツールであるが、どんなに便利なツールであっても、万能というわけではない。利点とは逆に以下のような欠点もある。

- ①学校で使用している教科書に準拠しているわけではないので、既習語と未習語が混在しており、すでに定着していると思われる語も再度学習しなければならないという煩わしさがある。
- ②いくら工夫がなされているとはいえ、平均的な中学生が集中できる時間は25～30分程度である。1時間の授業の中では、別の活動とうまく組み合わせて学習計画を立てる必要がある。

従って今後、これらの欠点を補うような活動の開発・研究に取り組み、smart.fmの利点を最大限に活かす授業展開について研究の余地があるだろう。

2. 普通教室における簡易CALL装置の活用について

全学年を通して普通教室で簡易CALL装置を用いることが当たり前のことになってから数年が経った。簡易CALL装置を用いることで生徒により多くの情報を与えたり、より多くの活動を行わせたりできることに繋がっている。また今年度、改めて感じたことは、数年前に作成したスライドなどに少し手を加えることで、現在の生徒の実態に応じた教材に変えることができたということである。数年前まで活用していたピクチャーカードやフラッシュカード、模造紙に書いたものを3年間保存するには場所が必要であるし、3年間買いそろえる費用も必要である。また、それらが3年間きれいな状態で保存できるとも限らない。デジタルデータはいつまでも色あせることなく、一度作れば簡単に手直しができ、保存も

USBメモリー1本あれば十分である。研究協議会では毎年、どんなソフトを使っているのかと質問されるが、全てパワーポイントを利用した自作教材である。自作なら費用もかからない。教材を自作することは面倒な作業のように感じられているが、期待される教育効果から作業の手間を差し引いても絶対にマイナスにはならない、むしろプラスになると言える。私自身コンピュータは苦手で、やり方の分からないところがあると他の先生方に教えてもらいながらやっており、決してスムーズにできているわけではない。それでも教育効果や教材の保存、作成、費用などを鑑み、これからもどんどん活用していきたいと思う。簡易CALL装置を活用しはじめた頃からその利便性は検証されていたが、3年間の教材がたまった今年はそれを痛感した。今後も簡易CALL装置の活用によって多くの情報を与えることができるという点を利用し、これまで以上に聞く、読む、書く、話すといった活動をより多く取り入れ、コミュニケーション能力の基礎を養うと共に、学力低下に歯止めをかけるべく、確かな学力を身につけさせたい。

3. Authentic Materialの活用について

本校では毎年第2学年で京都校外学習を実施しており、今年も5月に京都の各方面で外国人観光客と英語を用いてコミュニケーション活動を行った。これまでは午前と午後に分けて2カ所の観光地でインタビューを行っていたが、今年は班別自主活動をしながらインタビューしていくという計画で進めた。スタートは二条城、ゴールは清水寺とどちらも外国人観光客に人気のスポットを設定しておき、その間は各班の学習目標に沿って決めたコースを回りながらインタビューを行った。相手に聞きたいことと自分たちが伝えたいことのメモを持ち、あとは道行く外国人に声をかけるという少々、荒っぽい校外学習ではあったが、チェックポイントからの移動中に偶然見かけた班が道端で外国人と楽しそうに話しているのを見て、本物のコミュニケーションの成立を感じることができたのではないかと思った。あらかじめ話す内容については原稿を作成していても、相手の質問は予測不可能で、ある班からはインタビュー中、何度も聞き返したり、紙に書いてもらったりして質問の意味を理解することにしたという話を聞いたし、質問にされたことについて、分かる単語と身振り手振りで受け答えしたという話も聞いた。しかしこれが本当の自己表現なのであり、この校外学習を通じて、生徒たちは「もっとスマートに英語を話すようにしたい」や「もっと単語の知識があればよかった」というように、英語学習への意欲を高めることができ、コミュニケーションに必要な多くのことを学ぶことができているため、今年からは第3学年でも実施することになった。

〈生徒感想より〉

・自分たちが話す英語が外国の人たちに伝わり、とても嬉しかったです。けれど、相手の英語をなかなか聞き取れなかったし、急な質問にもきちんと対応できなかったの、これからもっと頑張って英語に慣れ、最終的には外国の人たちと自然に会話できるようになりたいと思います。

・最初は外国人に声をかけるのは戸惑いましたが、だんだんと慣れていくと普通に話すことができました。またこんな機会がほしいと思いました。とても嬉しかったです。



・初めは外国人とちゃんと話すことができるのか心配だったけど、やっているうちに自分たちが習っていることが通じてとてもうれしかったです。見ず知らずの外国人と話すなんて初めての経験で、ドキドキしたけど良い機会で嬉しかったです。またやりたいです。

・私は今回の活動で外国の人と話してみても、すごく優しい人ばかりで親切にしてもらったことが印象に残っています。相手の言っていることもけっこう分かったのですごく嬉しかったです。今度、



話すときは全部分かるようになるために頑張って英語の勉強をしようと思いました。

・今回インタビューをしてみて、やっぱり私が話す英語とは全然違うな、と思いました。みんな思っている以上に話すスピードが速くて驚きました。だから聞き取るのは本当に大変でした。それでもなんとか相手の人の言っていることがわかったので嬉しかったです。あと、外国人はやっぱりフレンドリーでした。最初に声をかけるときは怖いと思ったし、話してくれるか分からなくて不安だったけど笑顔でOKと言ってくれて、安心しました。今回のインタビューで改めて外国人と話す楽しさが分かりました。すごく達成感が得られました。それに本当に自分の英語が伝わったということで少し自信が持てた気がします。また外国人と話をしたいです。

4. 協同学習的手法について

協同学習的手法を全ての教科で取り組み、数年になる。比較的英語科では協同学習を取り入れるのが難しいと言われているが、今年度は二つの視点にさらに卓越性の達成を目標に加え、取り組んだ結果、今後の英語科における協同学習の意義を見いだすことができたような気がする。本校の研究主題である「言語活動の充実」のためにも、小グループで高め合う協同学習は切り離すことのできない、非常に有用な学習形態である。

またここ数年、協同学習的手法を取り入れるために四人一グループという班を編制し、教科学習だけでなく学級運営においても活用している。その成果も見られるようになってきた。班編制の仕方は色々あるが、私はまず十人の班長を決め、班長会を持つことにしている。学級の状態によって班長は担任の指名だったり、立候補だったりする場合がある。班長会では班編制のルールを伝え、それを元に班長が班のメンバーを決めていく。ルールは至って簡単、三つしかない。まず一つめは男女二人ずつの四人で一班。仲良しグループは作らない。二つめは学校生活面においてサポートが必要だと思う生徒を班長一人につき、一人を必ずメンバーとする。そして三つめは学習面においてサポートが必要だと思う生徒も班長一人につき、一人を必ずメンバーとする。班長会ではたくさんの意見が出る。クラスの問題点が浮き彫りになり、どの班長もどうすれば一人一人が輝くのかを考えている。担任すら気付かなかった情報や問題点が出てくる。決して悪口を言っているのではなく、いい班を作りたい、いいクラスにしたいという思いでいっぱいである。担任はただ、班長たちがクラスのことや仲間のことを真剣に考えているか観察しているだけである。班が編制されるまでをしっかりとっておけば後は生徒を信頼して任すことができる。班長たちは自分たちが決めた班だから、学習面、学校生活面でサポートが必要な生徒に何とか働きかけようとする。決して文句は出ない。こうすることで班長の責任感が高まり、サポートされている生徒も仲間に支えられているという気持ちが高まる。気持ちが高まると四人がそれぞれ、みんなの役に立たなければ、という気持ちになる。生徒の自治能力の高まりは学習意欲の高まりにつながり、毎回、活発に意見を出し合ったり、教え合ったりする姿が見られる。例えば読む活動の時、班の中で読むペアを縦、横、斜めペアとすることで毎回ペアが変わり、三者三様のアドバイスがある。書く活動の時には必要な単語を調べる者、似たような意味を持つ単語の使い分け方を調べる者、文を書いていく者と手分けして作品を作っていく。細かな指示をしなくても自然と班の中で協同が生まれている。ある教育実習生が班長会の様子を見て、自分が中学生の時に仲間について、クラスについてあんなにしっかり考えたことはない、中学生とは思えないほどレベルの高い話し合いだと感想を言っていたが、周囲に敏感な中学生だからこそ、自治的な活動が重要なのではないだろうか。

このように班の中で協同する場面が多く見られるようになった今、今後の課題はCALLシステムと協同学習をどう結合させるか、である。指導助言の江利川先生が「仲間同士の学び合いをCALLやICLを活用しながら活かす方法」と表現されていたが、イメージとしては「プラスとプラスをかけ合わせるとプラスになる」という正負のかけ算のようなことなのだと思う。CALLシステムやICLの活用が有用であることが検証されているのであるから、それだけ独立したものにせず、これまた有用な協同学習と結合させることでさらに高い教育的効果を見込めるであろう。今後どういった結合の方法があるか研究を進め、4技能をバランスよく身につけさせることで昨今の教育的課題を克服していきたい。

① 題材 総合演習 ～物語を通して4技能の力を高める～

② 題材について

(1) 教材について

本題材ではこれまでに習った文法や語彙を用いて聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能を総合的に扱い、生徒のコミュニケーション能力の基礎を育むことをねらう。従って、それぞれの活動において生徒の興味・関心が持続させられるよう、教材には物語を用いる。幼い頃、母親の読み聞かせを聞きながら「この後、どうなるんだろう。」と先を予想し、ワクワクした体験が誰にでもあるものであり、物語にはそんな興味・関心を引きつける要素が多分にある。教材である物語に扱われている文法事項や大半の語句はもちろん既習のものであるが、未習のものも含まれている。しかし物語には起承転結のストーリーがあり、前後の話の展開や文を聞き取ることで未習の語であっても意味を予想することができたり、大きな負担を感じることなく聞くことができると思われる。またさらに聞いた内容を元にストーリーを構成し、どのような物語なのかを読み取らせる活動においても、話の結末は明かさず、生徒の興味・関心が持続させることができるようにしたい。

(2) 生徒について

本学級の生徒は様々な活動に意欲的に取り組むことができ、特に班活動においては昨年度から学校全体で取り組んでいる協同学習の成果も見られ、班長を中心としてメンバーで協力しようとする素地ができてきている。従って学習面においても、教科によって得意な生徒が得意でない生徒に考え方を教えたり、意見を促したりするなど、「学習で孤立しがちな生徒」を引き込んで取り組むことができている。英語学習においても同様の場面が見られるが、ただ英語学習となると必然的に英語を用いた活動になるため、意見を出し合う場面では英語が苦手な生徒は促されてもあまり意見を出すことができず、聞く一方になってしまうという場面も見られる。そこで英語での班学習においては、「一つの出来ることから参加する」こと、「参加できたことを喜び合う」ことを伝え、現在、班全員で取り組んでいるところである。時間がかかることであるが、個人の「自分も認めてもらえた」という喜びと、班全員の「全員で取り組むことができた」という喜びが次のステップアップにつながり、そしてさらに学習への意欲や理解の深まりが生じるよう、様々な場面において継続指導中である。

(3) 指導について

本題材では、これまでに習ったbe動詞、進行形、過去形、未来形などの文法事項や語彙を言語材料として使い、聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの4技能の活用を扱う。聞くことにおいては早い段階から比較的慣れ親しんできているため、未習の語句が用いられていても必要な情報をおおよそ、聞き取ることができている。そこで導入には生徒にとって負担の少ない聞く活動を取り入れ、聞き取った内容に基づいて英文を構成させることで生徒の考えようとする意欲を引き出すことをねらう。構成された英文には未習の語句が含まれるが、内容の読み取りには辞書を活用したり、班で意見や考えを出し合うなどして、個人や集団の力で解決しようとする姿勢を育みたい。

また話すこと、書くことにおいては生徒にとって負担が大きいため、物語の結末になる部分の英文を個人で考えた後、班で考えをすりあわせたり、英文を確認したりする場面を設定し、一人一人が責任を持って課題を果たすことができるように授業を組み立て、展開したい。

③ 学習目標と評価規準

(1) 学習目標

- ①話される英文を聞いて、おおまかな内容を理解することができる。(聞くこと)
- ②既習の文法事項の文の形・意味・用法を理解し、内容を正確に読み取ることができる。(読むこと)
- ③既習の文法事項や語彙を用いて物語の結末を表現することができる。(書くこと、話すこと)

(2) 本単元における具体の評価規準

規 準	①コミュニケーション への意欲・関心・態度	②表現の能力	③理解の能力	④言語や文化について の知識・理解
聞 く こ と	(言語活動への取り組み)		(正確な聞き取り)	(言語についての知識)
	(コミュニケーションの継続)		(適切な聞き取り)	(文化についての理解)
話 す こ と	(言語活動への取り組み)	(正確な発話)		(言語についての知識)
	ア、間違いを恐れず英 文を話そうとしている。			(文化についての理解)
読 む こ と	(言語活動への取り組み)	(正確な音読)	(正確な読み取り)	(言語についての知識)
	(コミュニケーションの継続)	(適切な音読)	イ、物語の内容やその 質問について正確に理 解することができる。	ア、物語の語句の発音 や文の強勢などについ ての知識がある。
書 く こ と	(言語活動への取り組み)	(正確な筆記)		(言語についての知識)
	(コミュニケーションの継続)	ア、物語の内容に関す る質問に対して、正確 に答えを書くことがで きる。		イ、既習の文法を用い た文の形、意味、用法 についての知識が身に ついている。
		イ、習った文や語句を 用いて英文を書くこと ができる。		(文化についての理解)

④ 単元構成表

(1) 学習計画

第1時 総合演習Part 1 〈聞くこと、読むことを中心とした活動〉(本時)

第2時 総合演習Part 2 〈書くこと、話すことを中心とした活動〉

(2) 学習活動と言語活動の視点について

時	ねらい	学習活動	評価規準
1	○物語を聞いて、大まかな内容を理解する ○辞書を活用するなどして物語の内容を読み取る	・リスニング練習 リスニングエクササイズを行う。 ・物語の聞き取り 物語を聞き、大まかな内容を理解させる。 ・英文パズルと内容の読み取り 物語の英文ピースを聞き取った内容に沿って組み立てさせる。 ・問われた質問に対し、英語で答える 完成した物語の内容を読み取り、問題に取り組ませる。	③ーア ③ーア ③ーイ ②ーア
2	○物語の結末を考え、英文で表現する ○物語の結末を班で発表する	・復習を行う 物語の音読に取り組み、前時の復習を行う。 ・物語の結末を英文で表現し、班で発表する 物語の結末の英文を書かせ、考えた英文を班で発表させる。 ・発表の順を決め、表現の練習に取り組ませる ・発表の練習後、全体で発表する	④ーア ②,④ーイ ①ーア

*表中の評価規準については5(2)の具体的評価規準を示す。

⑤ (1) 本時の目標

- 教師の話す英文を聞いて、大まかな内容を聞き取ることができる。(聞くこと)
- 物語の内容を正確に読み取ることができる。(読むこと)

(2) 本時の具体的評価規準及び評価の方法

評価の観点	具体的評価規準	評価の方法
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
表現の能力	・物語の内容に関する質問に対して、正確に答えを書くことができる。(書くこと)	ワークシート
理解の能力	・教師が読む物語やその内容に対する質問を聞き、大まかな内容を聞き取ることができる。(聞くこと)	ワークシート 活動の観察
言語や文化についての知識・理解		

⑥ 本時の展開

学習活動	教師の指導	評価・備考
・挨拶する。 ・リスニングの練習に取り組む。	・挨拶する。 ・クイズを聞き、答えを考えさせる。 ・映像を見て確認する。	ワークシート ノートPC プロジェクター
・物語を聞き、大まかな内容をつかむ。 ・本時のめあてを確認する。	・CDを聞き、大まかな話の内容をメモするように指示する。	ワークシート 評価規準③ーア
・物語の英文ピースを配布し、英文パズルを行う。	・班で協力してパズルを完成させるよう、指示する。	英文ピース

<ul style="list-style-type: none"> ・物語の構成を確認する。 ・物語の内容を各グループに分かれ、読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CDを聞き、構成を確認する。 ・個人で黙読した後、各グループに分かれ、内容を読み取るよう指示する。 ・グループで読み取った内容を班で確認する。 	スクリプト 英和辞書 ワークシート 評価規準③ーイ
<ul style="list-style-type: none"> ・内容に関する質問を聞き、英文で答えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できていない生徒を支援する。 ・班で答えを確認するよう指示する。 	ワークシート 評価規準②ーア
<ul style="list-style-type: none"> ・答えを確認する。 ・次時の学習について知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンに質問と答えを映し、内容を確認する。 ・宿題と次時の学習について説明する。 	ノートPC プロジェクター ワークシート

⑦ 反省と課題

昨年度、指導助言いただいた「卓越性」という点において、最も難しかったのは課題のレベルを設定することであった。様々な雑誌や本を見たものの、難しすぎたり、簡単すぎたりとどれもこれだ、というものがなく、やはり中学生のレベルでは教科書が精一杯なのかと思い、様々な出版社の教科書を見て、使えそうな物語を探すことにした。探している中でたくさんの読み物を見てみたが、一人では難しいが、意見や知識を出し合えば理解できるというレベルはやはり教科書から大きく外れない方がよいと感じ、今回は教材に数年前のNew Horizon Book 2（東京書籍）に掲載されていた「Pete and the Orange Men」を用いた。



導入時では約3分間という長い聞き取りであったものの、聞き取った単語だけでもメモをとろうとする意欲的な姿勢が多く見られた。2回目ではある程度の話の流れを理解できている生徒もいたが、メモをとったものの話の流れがつかめな生徒もいた。しかし英文パズルを利用したおかげで、聞き取った内容を英文で確認することができ、メモをとった内容を見ながら比較的多くの班が正しい順に並べることができた。

読み取りについては協同学習の手法の一つであるジグソーを利用し、専門家チームで辞書を用いたり、意見を出し合ったりしながら行った。授業には毎回、協同の場面を意図的に組み込むようにしているが、常々人数の多さに苦戦している。学習班が10班、専門家チームになっても8班、しかもメンバーが5人と



という数では一人一人の活動や全ての班の活動を観察することが本当に難しい。協同学習の研究を進めるにつれ、益々1学級40人という数に悩まされる。半分に分けて20人で協同学習を行うとなると、空き教室や教師の数を確保することも必要である。いずれにせよ、この人数を何とかすることでさらに協同学習の効果があがるのではないかと思う。

第2時では物語を専門家チームで音読練習し、班にかえてメンバーに音読の指導を行うというジグソーを利用した。初めて見る単語も専門

家チームで練習してきた成果もあって、班の中で互いに教え合うことができていた。専門家チームを利用することで発音記号の見方やアクセントの位置の確認がスムーズに行うこともでき、ジグソーの可能性を大いに感じることができた。

話の結末を書く活動では、生徒たちは楽しみながら原文よりも面白いオチを考えることができていた。ただ、そのオチを英文で書くのは少々難しく、一文に表現されるものがほとんどになってしまい、書くことの指導については今後の研究課題であると再認識することができた。書くことは生徒にとって最もハードルの高いものであり、書くことができれば何とか話すこともできる。文構造を定着させる指導方法について研究を深め、今後の指導に活かしたい。

<生徒作品より>

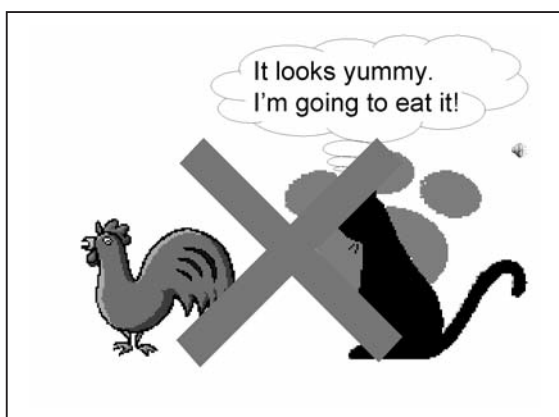
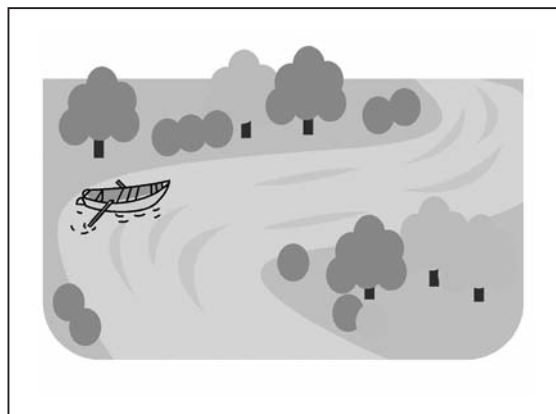
- But Pete could not answer because his family,the neighbors and everyone were orange men!
- 'Why are you orange, Pete?' everyone asked. Pete became an orange man!
- 'Six orange men came here!' Pete answered. But no one believed him.
- Then Pete woke up. That was his dream.
- When Pete answered, six orange men came back with bombs. They attacked Pete and he died.
- Pete didn't answer. So everyone went back home. A few days later, when Pete and his family were eating some oranges, they were very surprised. Because some oranges turned orange men and orange men killed Pete and his family.
- When Pete answered, they looked up the sky. They found the spaceship. Six orange men came back! They attacked the people! It was an opening of star wars.
- But Pete could not answer because he was very scared.
- Pete stood there and looked up the sky.
- But six orange men came back and they gave him the gifts again. The gifts were very wonderful and expensive. Pete became rich.
- Pete tried to answer, but he lost his memories at that time.
- Pete talked about orange men and he went to orange men's planet. He started to live with orange men.
- Then the spaceship came out. Orange men destroyed the earth.
- Pete talked about the spaceship and they went home. Orange men appeared with peach men, apple men and grape men in his house.
- It was Pete's dream.
- And six orange men returned to revenge Pete. He ran away but orange men were very strong. He was caught by them and taken to orange men's planet.
- 'I saw some aliens and I am an alien, too.' Pete said.
- Orange men returned there and they invaded the earth.
- Pete talked about six little orange men. But everyone said to him, 'You are a liar.' Everyone in his town said, 'Don't be a liar like Pete.'
- Six little orange men returned to the earth and they made Pete an orange man.

<生徒の感想より>

- 物語を聞き取るのは難しかったけど、4人で手分けして読むのはできた。話を聞いた後に読むのは結構簡単だった。最後の部分を考えるとき、かなり盛り上がった。みんなの結末が面白かった。
- 習っていないことでも辞書があれば分かった。長い英文の聞き取りなんてめったにしないから自分の聞き取りや読み取りの力試してみたいで楽しかった。

- ・僕は英語が苦手だけど、できないと班の人に迷惑をかけるからエキスパートチームで一生懸命辞書を調べた。教えてもらったのでよかった。
- ・いっぱい知らない単語があったので困ったけど、エキスパートチームの人みんなで考えたからわかった。私も他の人に教えてあげれたのでよかったと思う。
- ・長文の訳し方がわかったような気がする。結末を書くのは難しかったけど、テキストにいっぱいヒントがあることがわかった。

<授業で使用したスライド>



実践2 3年生

授業者 福元元章

① 題材 映画『魔女の宅急便』のワンシーン

学習サイト smart.fm における『core2000基礎英語シリーズ』の「基礎英語ステップ3」

② 題材について

今年度は、「ICTの活用とオーセンティック教材の開発」というテーマのもと、子どもたちの英語に対する興味関心を高め、より高い学習効果を得るために、ICT機器を活用し、できるだけ本物の英語に触れられる教材を用いた授業に取り組んでいる。具体的には3年生では、宮崎駿監督による映画『魔女の宅急便』とウェブサイトsmart.fmを活用した授業を行う。

宮崎駿監督による映画、『となりのトトロ』や『魔女の宅急便』は今の子どもたちにとってひじょうに馴染み深く、優れた英語教材となりうる。今年度は『魔女の宅急便』より、中学校3年生にふさわしい既習の表現が含まれたシーンを選び出し、リスニング用教材として活用している。また新学習指導要領に示されたプラス300語の語彙の一部を習得させるために、学習サイトsmart.fmの『core2000基礎英語シリーズ』-「基礎英語ステップ3」と「基礎英語ステップ4」(ステップ1～ステップ10がある)に取り組ませている。

③ 学習目標と評価規準

学習の目標 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・映画の中で使われているオーセンティックな英語を聞き取ることができる。 ・ICTを活用した語彙学習に意欲的に取り組み、目標語彙を習得することができる。
理解の能力	ア 「魔女の宅急便」のワンシーンを視聴し、そこで使われている英語を聞いて理解することができる。(聞くこと)
言語や文化についての知識・理解	イ STEP3 NO.1～51の単語について、聞いて意味が分かり、つづりを正しく書くことができる。 (聞くこと、書くこと)

④ 学習計画(単元構成表) 全25時間(本時は5時間目)

時	ねらい	学習活動	評価規準
第1時～第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔女の宅急便」のワンシーンを視聴し、そこで使われている英語を聞いて理解することができる。 ・STEP3 NO.1～NO.100の単語について、聞いて意味が分かり、つづりを正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『魔女の宅急便』ワンシーンの聞き取り練習 ・STEP3 NO.1～NO.100の単語練習 	ア イ
第6時～第10時	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔女の宅急便」のワンシーンを視聴し、そこで使われている英語を聞いて理解することができる。 ・STEP4 NO.1～NO.50の単語について、聞いて意味が分かり、つづりを正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『魔女の宅急便』ワンシーンの聞き取り練習 ・STEP4 NO.1～NO.50の単語練習 	ア イ
第11時～第15時	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔女の宅急便」のワンシーンを視聴し、そこで使われている英語を聞いて理解することができる。 ・STEP4 NO.51～NO.100の単語について、聞いて意味が分かり、つづりを正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『魔女の宅急便』ワンシーンの聞き取り練習 ・STEP3 NO.51～NO.100の単語練習 	ア イ

第16時～第20時	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔女の宅急便」のワンシーンを視聴し、そこで使われている英語を聞いて理解することができる。 ・STEP4 NO.101～NO.150の単語について、聞いて意味が分かり、つづりを正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『魔女の宅急便』ワンシーンの聞き取り練習 ・STEP3 NO.101～NO.150の単語練習 	アイ
第20時～第25時	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔女の宅急便」のワンシーンを視聴し、そこで使われている英語を聞いて理解することができる。 ・STEP4 NO.151～NO.200の単語について、聞いて意味が分かり、つづりを正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『魔女の宅急便』ワンシーンの聞き取り練習 ・STEP4 NO.151～NO.200の単語練習 	アイ

⑤ 本時の目標

- 映画の登場人物が何を話しているかを理解することができる。(聞くこと)
- STEP3の英単語を聞いてその意味を理解することができる。またそのつづりを正確に書くことができる。(聞くこと、書くこと)

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教師の指導	評価・備考
《smart.fmの単語の復習》 <ul style="list-style-type: none"> ・単語の意味確認と発音の練習を行う ・ペアになって練習をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを使ってスピーディーな指導を行う ・一人1分半の時間を与え、緊張を与えながら練習させる 	ノートPC プロジェクター 単語練習カード 〈評価規準〉イ
《「魔女の宅急便」の映画の聞き取り練習》 <ul style="list-style-type: none"> ・今日のシーンを視聴する ・今日のシーンのスクリプト(虫食い版)を見て、台詞を推測する ・今日のシーンの音だけを聞き、虫食い部分に入る語句を書き入れる ・班内で確認しあう ・再度、音だけを聞き、書けなかった部分を書き入れる ・全員で抜けている語句を確認する ・もう一度今日のシーンを視聴する 	<ul style="list-style-type: none"> ・シーンのシチュエーションを理解させる ・推測だけを行わせ、まだ書かせない ・意見を交換させる中で語句の確認をさせる ・語と語のつながりに注意させながら聞かせる 	ノートPC プロジェクター 〈評価規準〉ア
《smart.fmを用いた語彙の学習》 <ul style="list-style-type: none"> ・smart.fmにログインする ・語彙の学習に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログインに手間取る生徒に留意する ・自分のペースで取り組ませることを基本とするが、ペースを速めるように励ます 	PC ヘッドセット 〈評価規準〉イ

⑦ 結果と考察

【教材について】

- 『魔女の宅急便』は、次のような点でリスニング用教材としてひじょうに優れている。
 - i) 音声がとてもクリアで聞き取りやすい。また速さも適切である。
 - ii) まさにオーセンティックな教材であり、日常生活で用いられる様々な英語表現にふれることができる。
 - iii) 多くの子供たちがすでに日本語版の映画を見ているので、学習にスムーズに入っていける。また主人公のキキは13歳の女の子という設定であり、中学生と同年代であるということも、作品の世界に入って行くには好都合である。
- smart.fm (<https://smart.fm/>) は、単語をベースとした英語学習には極めて便利なサイトであるといえる。それは、
 - i) 無料でだれでも取り組むことができる。
 - ii) 様々なレベルの教材が用意されており、生徒の実態に即した利用方法を選択することが可能である。
 - iii) コンピュータを使って、個に応じたペースで学習できる。
 - iv) 学習結果がサイトのサーバーに記憶され、次回の学習はそのサーバーが自動的に学習内容を設定してくれる。また指導者が、個々の生徒の学習進捗状況を見ることも可能である。

学校での英語学習において、教材のすべてを私的なウェブサイト に 依 拠 する こと が 是 か 非 か の 論 議 は 当 然 ある だ ろ う 。 し か し 、 良 い も の は ど ん ど ん 使 っ て い っ た ら い い の で は な い か と 私 は 思 う 。 そ れ だ け の 価 値 が あ る サ イ ト で あ る 。

中学校における新しい学習指導要領の完全実施は平成24年度からであるが、そのときになれば、当然教科書もそれに準じたものとなり、教科書で取り扱う語彙数も1200語がカバーされたものとなるだろう。そのときには、このようなウェブサイトを利用することも必要なくなるだろうが、24年度までの暫定的な取り組みとして今後も実施していきたいと考えている。

【指導について】

- 『魔女の宅急便』の聞き取り練習については、映画のDVDをそのまま使ったのではなく、DVDの動画と音声を、コンピュータ用のWMVという形式のファイルに変換し、それをノートパソコンを使って再生し、生徒に視聴させた。DVDプレーヤーでは、見せたい場面を選んでそこだけを見せたり、繰り返して見せたりするのに時間的なロスが多い。それに対してコンピュータ用のファイルを使えば、ワンクリックで簡単に何度でも見せることが可能である。現在、動画編集用のソフトが多く販売されており、だれでも簡単にファイル変換が可能である。

- 今回の授業においても、『魔女の宅急便』の聞き取りの学習において、昨年同様に協同学習的手法を取り入れた。

- i) ペアやグループの中の一人のメンバーの学習が、他のメンバーにとっても利益となっているか。
- ii) ペアやグループで学習することに必然性があるか。

という2つの観点で学習内容や方法を考えた。ii)の基準については、今回の場合は「必然性」ということには少し欠けていたかもしれないが、i)の基準については、相談を重ねる中で徐々に聞き取れなかった語句が聞きとれるようになっていったこと、また班のメンバー全員の力で、一人ではできなかったことが実現できたという達成感を味わわせることができたこと、等々の点で概ね基準をクリアできていたのではないかと思う。

本校で協同学習的手法を取り入れた授業を展開するようになって早や3年が過ぎようとしている。現

在の3年生は、入学後の最初の授業から男女ペアで座り、つねに4人組の班を基礎として学習や様々な活動に取り組んできた。1年生のときには班内でいろいろなトラブルが見られることもあったが、学年が進むにつれて徐々にそのようなことも少なくなり、今ではどこのクラスでも男女が本当に仲がよく、落ち着いた、おだやかな様相を見せるようになった。協同学習を成立させるための理論も大切だが、まず物理的に互いの席が接近していること、学習も生活もすべての活動が4人班をベースに行われれること、というようなことが実はもっとも大事なのではないか。本校に参観に来られた他校の先生方が異口同音に口にされることに「男の子と女の子が（気持ち悪いくらいに）仲がいいですね。」ということがあがるが、これは一朝一夕に実現できることではない。1年生の最初からの積み重ねによる「慣れ」がなければ、即席にペアやグループを作って学習させようとしても決してうまくいくはずがないのである。しかし、このことは裏を返せば、ペアで座るとか4人組を作りやすい座席配置にするといった、物理的に互いに話をせざるを得ないような状況を作ってやりさえすれば、協同学習の50パーセント以上は達成できていると考えることもできる。この協同学習は、「附属中学校だからできる」取り組みでは決してなく、どこの学校でも実現できる学習方法だと思うのである。ぜひ、一校でも多く、協同学習的な手法を取り入れた授業を行う学校が増えてほしいと切に願う次第である。

※ 資料

《今回利用した「魔女の宅急便」の1シーン》



《smart.fmのディクテーションのページ》



《「魔女の宅急便」のリスニング教材》

映画の聴き取り練習 魔女の宅急便－おそのさんとの出会い－

おその	<p>Oh, dear. Oh, my goodness. Hey, there! Your pacifier! Ma'am, you () your () pacifier! Oh, ()(). ()()...the baby will wake up and () all the ()().</p> <p>I'm sorry, folks. But could you wait just a minute? I'll be right back.</p>	<p>おやまあ、なんてこと。 お〜い、そこの方！ おしゃぶり〜！ 奥さん、赤ちゃんのおしゃぶりを忘れてますよ〜！ まあ、かわいそうな赤ちゃん。 これがないと目が覚めて、家までずっと泣くんだよね。</p>
キキ	<p>Excuse me. But ()()() me to deliver for you?</p>	<p>お客さん、ごめんなさい。ちょっと待ってていただけますか？ すぐに戻りますから。</p>
おその	<p>What?</p>	<p>すみません。私に届けさせていただけませんか？</p>
キキ	<p>The woman with the baby carriage who just went () the ().</p>	<p>えっ？ 乳母車を押した女の、ちょうど角を回ったところですから。</p>

おその I could reach her in () ().
Really? You'd () ()? Thank you so
much.
キキ My pleasure. Let's go Jiji!
おその Excuse me, () ().
Oh...Oh, my goodness! Wow.....

私ならすぐに追いつきますよ。
本当に? そうしてもらえる? とっても
感謝するわ。
よろこんで。ジジ、行こう!
ちょっと、お嬢さん。
おや、まあ…ワオ～。

《smart.fmで学習する語彙》

STEP 3 (100)

1 service サービス 2 member メンバー、会員 3 party パーティ 4 month 月、ひと月 5 car 車 6 system システム、方法 7 company 会社 8 ob 仕事 9 business 事業 10 road 道、道路 11 already 既に、もう 12 example 例 13 report 報告書 14 provide 提供する、供給する 15 line 線 16 information 情報 17 level レベル、(水平面の) 高さ 18 today 今日 19 buy 買う 20 remember 覚えている 21 kind 種類 22 minute 分 23 change 変化、変更 24 right 右の、右側の 25 left 左の、左側の 26 carry 運ぶ 27 view 景色、眺め 28 form (申込) 用紙、書式 29 allow 認める、許可する 30 stop 止まる、止める 31 god 神 32 interest 興味、関心 33 full いっぱいの、ぎっしり詰まった 34 send 送る 35 office 職場、オフィス 36 paper 紙、書類 37 expect 予期する、予想する 38 price 価格、代償 39 issue 問題 (点) 40 far 遠い 41 police 警察 42 enough 十分に 43 agree 同意する、賛成する 44 market 市場、需要 45 cost 経費、費用 46 possible 可能な 47 matter 事柄、問題 48 state 状態、様子 49 morning 朝 50 suggest 提案する、勧める 51 need 必要 (なもの) 52 only 唯一の、ただ～だけの 53 early 早い、早めの 54 city 都市、都会 55 hope 望む、期待する 56 age 年齢 57 center 中心 58 spend (お金・時間を) 使う、費やす 59 add 加える、足す 60 meeting 会議 61 once 一度 62 back 背中、腰 63 sell 売る 64 plan 計画 65 low 低い 66 difficult 難しい 67 health 健康 68 win 勝つ 69 fall 倒れる、落下する 70 land 土地、土壌 71 sometimes 時々、たまに 72 watch 見る 73 easy 簡単な 74 consider 検討する 75 stay 留まる、じっとしている 76 yesterday 昨日 77 use 利用 (法) 78 game 試合、ゲーム 79 cut 切る 80 break 壊す、骨折する 81 food 食べ物 82 shop 店 83 wrong 間違った、悪い 84 pick 選ぶ 85 eat 食べる 86 happy 幸せな 87 choose 選ぶ 88 listen 聞く 89 simple 簡素な、単純な 90 maybe もしかすると、多分 91 close 閉じる 92 sorry すまないと思う、後悔する 93 cold 寒い 94 teach 教える 95 hot 暑い 96 table テーブル、仕事台 97 mom お母さん 98 dad (会話で) お父さん 99 tonight 今晚 100 mad 怒った

STEP 4 (200)

1 right まさに、ちょうど 2 study 勉強する 3 government 政府、政治 4 particular 特別の 5 figure 数字 6 rate 利率 7 actually 実際は、現に 8 street 通り、道路 9 letter 手紙 10 effect 影響 11 community 団体、地域社会 12 result 結果 13 town 町、町なか 14 position 職業、地位 15 order 順序、順番 16 certainly 確かに、必ず 17 home 家へ 18 situation 状況、境遇 19 period 期間 20 class 授業、クラス 21 main 主要な、メインの 22 foot 足 23 law 法律 24 particularly 特に、著しく 25 building 建物、建造物 26 decision 決断 27 right 権利 28 offer 提供する、開講する 29 open 開いている 30 staff 職員、社員 31 church 教会 32 education 教育 33 die 死ぬ 34 draw (絵を) 描く 35 training トレーニング、研修 36 short 背が低い、短い 37 public 国民、市民 38 south 南、南部 39 subject 話題、教科 40 true 真実の、本当の 41 difference 違い 42 north 北、北部 43 stage 舞台、ステージ 44 accept 受け入れる 45 society 社会 46 bed ベッド、寝床 47 officer 将校、警官 48 learn 学ぶ、習う 49 teacher 先生、教師 50 third 三番目の 51 team チーム 52 available 入手できる、使用できる 53 parent 親 54 pass 通る、追い越す 55 usually 普通は、たいてい 56 include 含む、包含する 57 trade 職業、仕事 58 experience 経験 59 soon まもなく、もうすぐ 60 continue 続ける、持続する 61 bank 銀行 62 action 行為、行動 63 window 窓 64 long 長く、長い間 65 deal 取り扱う、取引する 66 section (分割された) 部分、切片

67 major 主な 68 cover 覆う 69 receive 受け取る、得る 70 support 支える、支援する 71 pound ポンド 72 department 部署 73 process 過程 74 control 管理、支配 75 amount 量、金額 76 involve 伴う 77 management 経営者、経営陣 78 page ページ 79 fine 素晴らしい、結構な 80 industry 産業 81 free 無料の 82 board 取締役会 83 club クラブ 84 project 予測する 85 story 話、物語 86 tax 税金 87 bill 請求書 88 wife 妻、奥さん 89 ground 土壌、地面 90 likely ～しそうな 91 value 価値、真価 92 account 口座、勘定 93 date 日付、日取り 94 wish 願う、望む、欲する 95 piece 一片、一切れ 96 product 製品 97 couple 夫婦、カップル 98 west 西、西部 99 bear 耐える、我慢する 100 explain 説明する、釈明する 101 hospital 病院 102 language 言語 103 quality 品質 104 concerned 心配している 105 drive 運転する 106 record 記録 107 site 現場、場所 108 chance 運、可能性 109 picture 絵、写真 110 condition 状態、体調 111 doctor 医師 112 fire 火、火事 113 computer コンピュータ 114 wear 身につける 115 raise 持ち上げる、上げる 116 color 色、彩色 117 strong 強い、激しい 118 manager 管理職、管理者 119 scheme 基本構想、計画 120 top 頂上、最高部 121 cause 原因、理由 122 join 加わる、参加する 123 evidence 証拠 124 field 野原、競技場 125 forward 前方へ 126 require 要求する、必要とする 127 increase 増やす、拡大する 128 wall 壁、塀 129 benefit 利点、手当て 130 rest 休息、休養 131 student 生徒、学生 132 university 大学 133 create 創造する、創作する 134 poor 貧しい 135 evening 夕方、晩 136 secretary 秘書 137 forget 忘れる 138 base 基づく、基礎を置く 139 single 独身の 140 air 空気、空中 141 act 行為、言動 142 pull 引く、引っ張る 143 look 見る 144 structure 構造 145 opportunity 機会 146 rule ルール、規則 147 practice 練習 148 love 愛、愛情 149 enjoy 楽しむ 150 detail 詳細 151 especially 特に 152 used to 以前は～だった 153 hair 髪の毛、毛 154 answer 答、返事 155 list 一覧表、リスト 156 size 大きさ、サイズ 157 finish 終える 158 role 任務、役割 159 clearly はっきりと、明瞭に 160 suppose 推測する 161 news ニュース 162 wonder 知りたいと思う、だろうかと思う 163 end 終わる 164 various 様々な、色々な 165 unit 部署 166 describe 描写する、言葉で表す 167 activity 活動 168 lady 婦人、女性 169 several いくつかの、いくつかの 170 worker 労働者 171 instead その代わりに 172 charge 料金 173 cup カップ、カップ一杯 174 common ありふれた 175 garden 庭、庭園 176 lie 嘘をつく 177 history 歴史 178 death 死 179 mark しるし、跡 180 research 調査 181 president 社長、大統領 182 east 東、東部 183 region 部分、地方 184 central 中心的な、主要な 185 catch 捕まえる、捕る 186 save 救う 187 station 駅、署 188 red 赤い 189 machine 機械 190 tree 木 191 application 応募、申請 192 further さらに遠くに、もっと先に 193 kill 殺す 194 box 箱 195 present 居る、現在の 196 son 息子 197 ago ～前に 198 discuss 話し合う、議論する 199 type 種類 200 local 現地の、地方の